

大阪市立総合医療センター
大阪市立大学大学院医学研究科
第1回 合同市民医学講座

人生百寿時代を迎えて

～これからを元気に暮らすために
知っておきたい医学情報～

2018. 11.17 (土)

14:00～16:30 (開場13:30)

●申込不要・入場無料・定員250名・手話通訳あり

場所

さくらホール

大阪市立総合医療センター

大阪市都島区都島本通2-13-22

大阪メトロ谷町線「都島」駅下車、2番出口から西へ徒歩3分
JR環状線「桜ノ宮」駅下車、東出口から北東へ徒歩7分



プログラム

1 『フレイル(加齢による衰え)を理解して健康寿命を延ばそう』

大阪市立大学大学院医学研究科 神経内科学教授

伊藤 義彰

2 『もっと知りたい！前立腺肥大症と前立腺がんの治療』

大阪市立総合医療センター 泌尿器科医長

青山 真人

3 『認知症診断～病気を知り将来に備え不安を解消しましょう～』

大阪市立総合医療センター 神経内科部長

井上 学

4 『女性の一生と婦人科疾患』

大阪市立大学大学院医学研究科 女性病態医学教授

角 俊幸

主催 / 大阪市立総合医療センター

後援 / 大阪市

お問合せ / 大阪市立総合医療センター 地域医療連携センター TEL 06-6929-1221 (代表)



大阪市立大学大学院医学研究科



http://www.osaka-city.jp/ocgh/about/s-himinkouzaka.htm

フレイル(加齢による衰え)を理解して 健康寿命を延ばそう

大阪市立大学大学院医学研究科
神経内科学教授 伊藤 義彰

日本では人生百寿時代を迎えつつありますが、加齢とともに体力、精神力が衰え、病気がちになることが問題です。この状態は「フレイル（英語で脆弱性を意味します）」と呼ばれ、健康寿命を延ばすためにその対策が注目されています。

例えば脳の分野では、高齢になると誰でも物忘れが出て、脳は萎縮します。前頭葉の萎縮は歩行障害や頻尿、意欲の低下につながります。こうした脳機能の衰えを理解せずに無理をすると、事故にあったり怪我をしたり、ひいては身体的な疾病をも引き起こしてしまいます。

講演では自分の「フレイル」な状態を理解し、それを進行させないように生活習慣や環境を整え、さらには加齢とともに生じやすい疾患を早期に発見することで、健康寿命を延ばす方法をお話します。

認知症診断

～病気を知り将来に備え不安を解消しましょう～

大阪市立総合医療センター
神経内科部長 井上 学

寿命が延び、高齢化とともに物忘れを訴える人は増えています。年齢とともに様々な老廃物が脳を構成している神経細胞に蓄積し、また、老化による血管の機能低下は脳梗塞や脳出血を引き起こし、これらにより徐々に脳の機能が衰えていきます。残念ながら、一部の疾患を除き現在でも物忘れを根治する治療法は開発されていません。そのため、現時点では物忘れを受け入れて生きていかなければなりません。しかし、認知機能が低下すれば何もできなくなり、分からなくなるわけではありません。今回は、認知症を呈する代表的な疾患（脳血管性認知症、アルツハイマー病、レビー小体型認知症、その他のパーキンソン症状を伴う認知症）を提示します。

病気を知り今後の症状進行や介護負担に備えることで、将来への不安が少しでも軽減し、豊かな老後を過ごすことができると考えております。

もっと知りたい！ 前立腺肥大症と前立腺がんの治療

大阪市立総合医療センター
泌尿器科医長 青山 真人

中高年男性の半数以上が前立腺肥大症に罹っているといわれています。前立腺肥大症の症状を和らげるにはお薬が有効ですが、年齢とともに徐々に症状が悪化し、薬が効きにくくなる場合があります。これまでは太いカメラを使って前立腺を削り出す手術を主流としていましたが、近年、手術用レーザー機器がめざましく進歩し、より細い内視鏡でレーザーを使った手術ができるようになりました。

レーザー手術と従来の手術との違いについて解説します。

後半は、前立腺がんの手術治療についてお話します。ダヴィンチと呼ばれる手術支援ロボットを使うことで従来の手術よりも繊細に少ない出血量で行うことができます。日本では、2012年4月より前立腺全摘除術、2016年4月より腎がんに対する部分切除術が保険適用となりました。膀胱がんなど多種多様な疾患への応用も期待されています。

今回は、健康保険で受けることができる泌尿器科の最新治療を中心にお話します。

女性の一生と婦人科疾患

大阪市立大学大学院医学研究科
女性病態医学 角 俊幸

女性の一生は、幼児期、思春期、成熟期、更年期、閉経後期と劇的に変化をします。この変化に、女性ホルモンの分泌の変化が関与していると考えられますが、その時期その時期で特有の疾患があることも見逃せません。例えば子宮頸がんは、20～40歳でよく見られますが、その理由として子宮頸がんの発症にヒトパピローマウイルス感染が関与していることで説明がつきます。一方、子宮体がんは40～60歳でよく見られますが、その理由として女性ホルモンの長期曝露により発がんすることが推測されます。今回は、年代特有の疾患について、その治療法や予防法を解説することで、女性の一生をより快適に過ごすための一助として頂きたいと考えております。